

文章題テスト・説明文(1)

日 月 名前

★次の文章を読んで、問いに答えなさい。

約束の時間を守らないで、他人に迷惑をかけることは悪いことであることは、だれもがみとめる。それなのにどうして私たちはこんなに時間にだらしがいないのだろうか。その理由は、私たち日本人は、時間をムダにしたり、ムダにされたりすることによりあまり細かく気につけない性質であるからだと思われる。十人の会合に、十分おくれてやってきた人は、他の九人の人たちから十分ずつ、合計九十分の時間をうばい取ったわけだが、当人はそれほど重大なあやまりをおかしたと思わず、十分ぐらいの時間のムダは、ほとんど気につけない。これがいけないのだと思う。

□これがお金だったら、人々はこんなにのん気になっているわけにはいかないだろう。つまり多くの日本人にとって、時間は、それをすぐお金のねうちにかえて考えるほど、大切ではないのだろう。しかし、自分にとって大切ではないからといって、他人もそうであると考えことはあやまりであろう。だいたいに、時間を正確に守らないのは、いそがしすぎる人と、ひますすぎる人に多いようである。前者は他人は自分ほどいそがしくないだろうから、少こしぐらい待ってもらってもゆるされるだろうと考え、後者は他人にもひまな時間がどつさりあると考えているのである。どちらも自分中心の考え方であることはいうまでもない。

しかしこれからの若い人は、他人の時間を大切にすることを大いに学ぶひつようがある。そうでなければ、まんぞくした共同生活を送ることはできなくなるであろう。それは人々がますますいそがしくなり、それだけに自分の時間をいよいよ大切にするようになるからである。

(河盛好蔵「人とつき合う法」より)



1 線ア～エのうち、送りがながまちがっているものを選んで、記号に○をつけなさい。
「少」の訓読みは「すこし」「すくなーい」の二通りある。

- ア 守らない イ 取った ウ 考える **エ** 少こし

2 線1「当人」とはだれですか。ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

合計九十分の時間をうばい取った人、また、重大なあやまりをおかしたとも思っていない人はだれかと考える。

- ア 他人 イ 私たち日本人
ウ 十分おくれてやってきた人 エ 他の九人の人たち

3 に当てはまる最もふさわしい言葉を、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。「もしくだったら」という言い方である。

- ア** もし イ また ウ おしろ エ だから

4 線2「前者」、線3「後者」はどんな人を指していますか。文中からそれぞれ八字以内で書きぬきなさい。

二つならべて書かれた事がらのうち、前のほうを「前者」、後のほうを「後者」で受ける。

《前者》

いそがしすぎる人

《後者》

ひますぎの人

5 この文章の筆者の意見と合っているものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。
ア 日本人は時間を大切だとは思っていない。
 イ このようなことは書かれていない。
 エ 自分の時間も他人の時間も大切であるというのが筆者の意見。

ア たいいていの日本人は、時間をお金と同じくらい大切だと思っている。

イ 時間を守らない人ほど、他人には時間を守ることを求めるものだ。

ウ これからは自分の時間と同じく、他人の時間も大切にしていくなさるべきだ。

エ まんぞくする共同生活のためには、何よりも自分の時間が大切である。



文章題テスト・説明文(2)

日 月 名前

★次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

花が、たくさん咲いている季節には、女王ばちは、一日に、一、五〇〇個ぐらいの卵を昼も夜も産みつけます。計算してみると、一分間に一個のはやさで産むのです。

一、五〇〇個の卵の重さは、女王ばちの体重(二〇〇―三〇〇ミリグラム)と同じぐらいになるといわれています。

不思議なことに、一日に、いくつ、卵を産むかは、女王ばちがきめるものではありません。外で働く働きばち、つまり、季節の変化を知っている働きばちがきめるのです。

「もうすぐ春が来るから、卵を産ませよう」
「今、花ざかりだから、たくさん、卵を産ませよう」
「つゆになりそうだ。あまり産ませてはいけない」
「夏が近づいてきた。卵を産むのを止めさせよう」

きつとこんな話し合いが、働きばちのあいだでかわされるのでしよう。

□、女王ばちにつきそっている若い働きばちにつたえられます。

若い働きばちが、ローヤルゼリーを、多く食べさせると、女王ばちは、たくさん卵を産みます。少し食べさせると、少ししか、卵を産みません。

もし、花が咲いていない季節に、おおぜいの仲間が生まれてくると、みんないっしょに、うえ死にしてしまうことを、みつばちは知っています。

私たち人間が、平和な生活を続けていくためには、食べ物と、人口との関係を、もっと、もっと、みつばちに教えてもらわねばなりません。

(大村 光良「みつばちの家族は50000びき」文研出版による)

(注) つゆ…夏の前の雨がふり続く季節

ローヤルゼリー…女王ばちが食べる栄養に富んだ食べ物



1 線のことをばを国語辞典で調べるとき、正しくひくことができる読み方はどれですか、ア〜エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア じょうおう イ じょうおお ウ じょおう エ じょおお

「女」の音読みは「ジョ」。五十音の才段の長音（のばす音）は、「う」と書くのがきまりだが、「お」と書く場合もあるので注意する。通る（とおる）、遠い（とおい）、多い（おおい）、氷（こおり）など。

2 〇に当てはまることばとしてもっともふさわしいものを、ア〜エから選んで、記号に○をつけなさい。前の文とのつながりを考えよう。

ア もし イ なぜなら ウ そして エ しかし

3 線「一日に、いくつ、卵を産むかは、女王ばちがきめるものではありません」とありますが、卵を産む数がどのようにきめられているのかを、次のようにまとめました。①、②に当てはまることばを、①は五字、②は三字で、それぞれ文中から書きぬきなさい。

卵を産む数は、外で働く働きばちが、①に合わせて決めています。たとえば、花があまり咲いていない時期は、②が少ないので、仲間がうえ死にしないように、卵を産む数をせいげんします。

① 季節の変化

② 食べ物

みつばちは、「食べ物」Ⅱ「花（のみつ）」の多い少ないに合わせて「人口」Ⅱ「卵を産む数」をきめているが、人間社会も、みつばちに見習うべきだというのが筆者の主張。

4 この文章の内容として当てはまらないものを、ア〜エから一つ選んで、記号に○をつけなさい。

本文9行目からの、（へ）の部分に着目。春先から花ざかりにかけては卵の数をふやすが、つゆから夏にかけてはへらすことがわかる。ア「花ざかり」は「花のたくさん咲いている季節」と同じ意味。

ア 花ざかりの季節には、女王ばちは、一日中卵を産み続ける。

イ 女王ばちは、夏が近づくにつれて、産む卵の数をふやしていく。

ウ 若い働きばちは、女王ばちにつきそって、食事の世話をする。

エ 人間は、みつばちから平和な生活について学ぶべきである。



文章題テスト・説明文(3)

名前 日 前

★次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

森を見にいくのが、私は大好きです。森といっても人工林ではなく、どんなに小さくてもいいから天然の森のほうが、カンサツするにはいいです。

まず土の表面には苔が生えていますね。その上には草が生きていて、ドングリなどが落ち小さな木のメがでています。その上には灌木があったり、中くらいの木があったり、うんと大きな木があったりします。森には多種多様の植物が生きていますね。これが森の秘密なのです。

大きな樹があると、日かげができて、ほかの木が生きられません。しかし、うまくしたもので、 を好む植物、キノコやシダなどがあります。すべての植物のために、自然はいろんな条件を提供しているということです。

自然というのは、本当に無駄がないのですね。

実際に森にはいってみると、植物の種類は本当にたくさんあります。何種類あるかと、もし数えようとしたら、気がトオくなってしまっているのではないでしょう。か。

こんなに植物の種類がたくさんあるのに、虫たちはどの葉でも食べるというわけではありません。たとえばあるアゲハチョウの幼虫は、カラタチの葉しか食べません。あるチョウの幼虫はキハダの葉しか食べないのです。カラタチもキハダも、森にそんなにたくさんある木ではなく、多種多様に生きている植物のひとつでしかないのです。

2 少ししかない植物をえさによって、虫たちは自分が生きるテリトリーを決め、ほかの虫たちと境界線をつくっているのです。自分たちはこれを食べるから、ほかの種類の虫は違うものを食べると無言で取り決めをし、すみ分けをしているのです。

3 いろんな植物が繁れば、いろんな虫が生きることができるといふことです。その虫をえさとする鳥や魚が生きていくことができ、ひいては食べる食べら



れるの関係、すなわち食物連鎖の輪が、私たち人間にまで、やがては届いてくるということです。(立松 和平「一人旅は人生みたいだ」所収「はじまりの森」より)

(注) 灌木…ひくい木 多種多様の…さまざまな テリトリー…なわばり 食物連鎖…生き物どうしの、食う、食われるの関係によるつながり

1 線ア「オ」について、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア「然」には「ゼン」という音もある。自然、当然など。イ「観」にも「察」にも、「見る」という意味がある。

ア てんねん イ 観察 ウ 芽

ウ音は「ガ」、発芽など。

エ 遠(く) オ わ

エ音は「エン」、遠足、遠方など。オ音は「リン」、車輪など。

2 線アに当てはまる言葉を、文中から三字で書きぬきなさい。

日かげ

キノコやシダなどが好む場所はどんなところか。ほかの木が生きられないところである。

3 線「自然」というのは、本当に無駄がない」とありますが、どのようなことを指していますか。次の文の□に当てはまる言葉を、文中から六字で書きぬきなさい。

いろいろな条件

に合った、

多種多様の植物があること。すぐ前に、「すべての植物のために、自然はいろいろな条件を提供している」とある。

4 線「少ししかない植物をえさにする」とありますが、文中でこのような虫の例は何種類あげられていますか。数字で書きなさい。

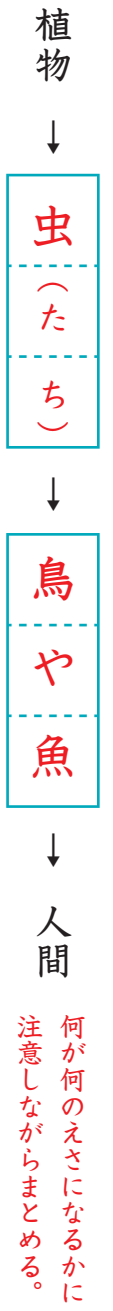
2 種類 カラタチの葉しか食べないアゲハチョウの幼虫と、キハダの葉しか食べないチョウの幼虫の例が紹介されている。

5 線「いろいろな植物が繁れば、いろいろな虫が生きることができるとありますが、このように言える理由を次のように説明するとき、□に当てはまる言葉を、「植物」という言葉を使って十字まで書きなさい。

例 えさにする植物(の種類)が

虫の種類によって、それぞれの虫が、決まった植物を食べているから、植物の種類が増えれば、虫の種類も増えることになるのである。

6 線「食べる食べられるの関係」に合うように、次の□に当てはまる言葉を、文中からそれぞれ三字まで書きぬきなさい。



何が何のえさになるかに注意しながらまとめる。

文章題テスト・説明文(4)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

わたしは、いまから一〇年あまりまえの春に、森のなかに小さな小さな小屋をたてました。

わたしが山小屋をたてた森は、自動車がいきかう国道から、十五分ほど歩いて山にはいった、スギとヒノキの森です。ちかくには、コナラの雑木林ぞうきばやしやアカマツの森もあります。このような変化へんかのある森にすむ野ネズミの代表が、アカネズミとヒメネズミです。これらの野ネズミは、尾おが、からだとおなじくらい長くて、すばやく動くことができます。そして、おもに木の実を食べてくらししているのです。

野ネズミは、とても小さな動物です。からだ3が小さいことには、よいことと、わるいことがあるようです。

からだ3が小さいと、たくさん4の動物にねらわれます。キツネやフクロウだけではありません。イタチやヘビなど、野ネズミを食べようとする動物がたくさん4いるのです。森のなかでは、うかうかしてはいられません。

けれども、からだ3が小さいと、石の下、岩のわれめ、木の根もと、たおれた木の下、やぶのなか、それにモグラのトンネルのなかなど、森にあるたくさん5のすきまに、かくれることができます。これが、からだ3が小さいことの、よいほうの意味なのです。

野ネズミたちは、ふだん、わたしたちの目に入らない小さなすきまを、じょうずにつかっているのです。

いまいずみよしはる 今泉吉晴「野ネズミの森」より。一部省略しりょうりやく

(注) 雑木林…まきなどにしか使いみちがない木の林



1 線1 「変化のある森」とは、どのような森のことですか。もっともふさわしいものを、ア〜エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア 自動車がいきかう国道からあまり遠くない森
 イ スギとヒノキがしげっている森

ウ ちがう種類の木が、近くにはえている森
「このような変化のある森」とあるので、すぐ前の部分をよく読む。いろいろな種類の木がはえていることをせつめいしている。

エ 山や谷があって、地形が入りくんだ森

2 線2 「アカネズミとヒメネズミ」について、次の表にまとめました。①に当てはまる言葉を、二字で書きなさい。また、②に当てはまる言葉を、文中から二字で書きぬきなさい。

からだのとくちよう	小さなからだに、からだとおなじくらいの ①の尾がついている。
動きのとくちよう	すばやい。
食べものの種類	おもに②を食べる。

① 長さ

② 木の实

すぐ後の、「これらの野ネズミは…」でせつめいしている。

3 線3 「からだ小さいことには、よいことと、わるいことがある」とありますが、このうち、「わるいこと」はどのようなことですか。文中の言葉を使って、十五字でいどで書きなさい。すぐ後で「わるいこと」を、4行後からは「よいこと」をせつめいしている。

た	く	さ	ん	の	動	物	に	ね	ら
わ	れ	る	こ	と	。				

例 15 10

4 線4 「野ネズミを食べようとする動物」に当てはまらないものを、ア〜オから一つ選んで、記号に○をつけなさい。
モグラのほったトンネルが、野ネズミのかくれ場所になっている。

ア キツネ イ フクロウ ウ イタチ エ ヘビ オ **モグラ**

5 線5 「小さなすきまを、じょうずにつかっている」とは、どういうことですか。次の文の□に当てはまる言葉を、文中から四字で書きぬきなさい。

小さなすきまに **かくれる** ことで、きから自分の身を守って

いるということ。
三行前に「森にあるたくさんのすきまに、かくれることができます」とある。



文章題テスト・説明文(5)

日 月 名前

★次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

スーパーやコンビニなどで買った食品に、賞味期限しょうみきげんが表示ひょうじされているのは知っていますね。では、賞味期限が切れたものは、どう処理しゅりをしているのでしょうか。

じつにもったいないことに、それは捨てすているのです。でも、それらは賞味期限が切れたからといって、すぐに悪くなってしまうものではないのです。先日、新聞に、スーパーマーケットに並ならべられたおにぎりは六時間を超こえたら、ほとんど捨ててしまうということが書かれていました。先進国でもっとも食料自給率りつひくが低く、外国に食べものの大半をゆだねている日本で、こんな無駄むだなことをしているのです。

4 いったいどれくらい捨てているかというと、賞味期限切れの食べもの、学校給食の残飯ざんぱん、家庭の残飯、観光地かんこうちの残飯、それから過剰農産物かじょうのうさんぶつ。なんとこれらを年間二〇〇万トンも捨てているのです。そのうち小売店から出る賞味期限切れや返品などの売れ残り食品のこは約六〇万トンです。

この六〇万トンを基準きじゆんに計算してみると、大人一人一日に五〇〇グラムを食べるとして、毎日三〇〇万人分も捨てていることになるそうです。こんな国はありません。世界でもっとも食料自給率の低い国なのに、裏側うらがわでは世界一食べものを捨てているのですから。なんとも恐ろしい民族みんぞくに見えるのは、私わたしだけでしょいか。

世界にはいま、ひと握りにぎの食べものがないばかりに空腹くうふくで死んでいく子どもたちが、何百万人もいます。

それなのに日本では、大人一人が一日に食べる量の、三〇〇万人分を毎日



捨てているのです。こんなことはほんとうにいけないことです。日本国民一人一人がこの現実げんじつをしっかりと把握はあくして、食べものを大切にしなければ、つぎの世代にはもうこの国はないかもしれません。

(小泉 武夫「いのちをはぐくむ農と食」より。一部省略しょうりゃく)

(注) 賞味期限：おいしく食べられる期限。

食料自給率：国内で食べられるもののうち、国内の生産でまかなうことのできるわりあい。

過剰農産物：必要以上につくりすぎた農産物。

空腹：はらがへること。

把握：しっかりと理解りかいすること。

1 線「それ」は何を指していますか。文中の言葉を使って十字でいどで書きなさい。

賞味期限が切れた食品

10

すぐ前の「賞味期限が切れたものは、どう処理をしているのでしょうか」に対する答えの文。「もの」はさらに前の「食品」を指している。

2 線「ゆだねている」の意味としてもっともふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア 注文している イ うばいっている

ウ さし出している エ まかせている

この場合は外国でつくられた食料にたよっているということ。

3 線「こんな無駄なこと」とありますが、どのようなことを「無駄」だと言っているのですか。もっともふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア まだ悪くなっていないものを捨てること

ここまでの内容に合うものをさがす。「すぐに悪くなってしまふものではない」のに「捨ててしまふ」ことを指している。

イ 食品が悪くなるまで売りつづけていること

ウ 食品を作りすぎて、たくさん売れ残ること

エ 国内で食料をほとんど作っていないこと



4 線4「いったいどれくらい捨てているか」とありますが、一年間に捨てられる売れ残り食品の量としてもっともふさわしいものを、ア〜エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア 二〇〇〇万トン

イ 約六〇万トン

「二〇〇〇万トン」は、残飯や作りすぎた農産物を合わせた量。そのうち「売れ残り食品は約六〇万トン」とある。

ウ 五〇〇グラム

エは、一日に捨てられる売れ残り食品の量。

エ 大人一人が一日に食べる量の三〇〇万人分

5 線5「恐ろしい民族」について、次の①、②に答えなさい。

① どのようなことを指して「恐ろしい」と言っているのですか。次の文の□に当てはまる言葉を、文中から十五字までで書きぬきなさい。

世界には、すぐ後の文に合うようにする。

空腹で死んでいく子どもたち

がたくさんいるのに、食料自給率の低い日本で、毎日たくさんの食べものが捨てられていること。

② 筆者は日本人にどのようなことをもめていますか。次の文の□に当てはまる言葉を、文中から八字で書きぬきなさい。

たくさんの食べものを捨てている現実を理解し、

食べものを大切にすること。

最後の文にある。

